

地域医療連携室通信



<富良野チーズ工房にて>

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

- 1P 表紙・目次
- 2P 2018年 年頭のご挨拶
- 3P 北彩都病院 消化器内視鏡室のご案内
- 4P-5P 永山腎泌尿器科クリニックの紹介
- 6P 北彩都病院 泌尿器科 金子 茂男医師 退職のご挨拶

◆基本理念◆

私たちは、最良の医療と介護サービスを通して社会に貢献し、地域の皆様と共に歩み続けます。

◆基本方針◆

- 1) 患者・利用者の皆様の権利と尊厳を守ります。
- 2) 知識と技術の向上に努め、良質なサービスを提供いたします。
- 3) 安全・安心な治療と療養が出来るよう努めます。
- 4) 職員一人ひとりが成長できる魅力あふれる職場環境をつくります。

★ 2018年 年頭のご挨拶

医療法人仁友会 北彩都病院 理事長 石田 裕則

新年あけましておめでとうございます。

今年の年始は、旭川市内では大雪に見舞われることもなく、穏やかに新しい年を迎えることができました。また、年末年始の診療につきましても大過なく安全に運営することができました。これもひとえに皆様の当院へのご理解とご協力の賜物であると深く感謝申し上げます。

はじめに、当院の近況についてご報告を致します。

昨年1月に開設した消化器外科・肛門外科では、同年4月より上部消化管内視鏡検査およびS状結腸内視鏡検査を開始し、9月からは旭川医科大学第三内科医師による全大腸内視鏡検査も開始しています。現在までに実施した検査・手術件数は徐々に増加していますが、今後も消化管内視鏡検査による出血性消化管病変の診断および治療、消化器がんの発見、消化器がん化学療法の実施および手術件数の増加を目指していきたいと考えております。当科については本誌の3ページで詳細を掲載していますのでご覧ください。

泌尿器科においては、昨年5月に体外衝撃波破石装置の更新を行いました。本機の特徴としては結石の焦点合わせが容易であること、破砕効率が高いことなどが挙げられます。今後の結石治療において治療効果のさらなる向上を目指していきたいと思っております。また、2015年よりイオンシネマ旭川駅前にて開催している泌尿器科疾患に関する市民講演会も継続しており、昨年は当院開院50周年記念として、タレントの間寛平さんによる前立腺がん治療の話題を交えた講演会を開催するなど、啓蒙活動に積極的に取り組んでいます。

血管外科では、下肢静脈瘤治療の選択肢の一つとして、2017年1月よりELVeSレーザー1470による血管内焼灼術（保険適用）を導入しています。足がむくむ、足の血管がポコポコと浮き出て瘤のようになっている、血管が目立つようになっているなどの症状でお悩みの方は当科へご相談ください。下肢静脈瘤は良性疾患でもあることから、検査数値としては手術適応であっても手術を希望されず弾性ストッキングの着用のみという方もおられますので、患者さんと相談しながら手術実施の有無を決定しています。

さて、我が国の医療・介護を取り巻く環境については皆様ご存じの通りですが、今年は診療報酬と介護報酬の同時改定の年となります。毎回厳しい改定となっておりますが、いわゆる団塊の世代が全て75歳以上となる2025年に向けて医療・介護のニーズも増大することが想定される中、医療費の抑制も課題とされ、加えて経済の景気動向も先行き不透明な状況にあります。しかしながら当法人といたしましては、いかなる状況であっても地域の皆様の健康を守る事が使命であり、常に知識と技術の向上に努め、良質なサービスを提供し続けていく所存です。これからも全職員が一丸となって取り組むべく、年頭訓示の際に今年のスローガンを「越える」として発表いたしました。昨年、当法人は開院50周年を迎えることができましたが、今年は次の100周年へ向けて職員一人一人はもとより、法人として更なる一步を踏み出す年にしたいと考えています。

最後になりますが、今後も患者さんにとってより良いサービスを提供し、地域・社会に貢献できるよう一層努めて参りますので、何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。

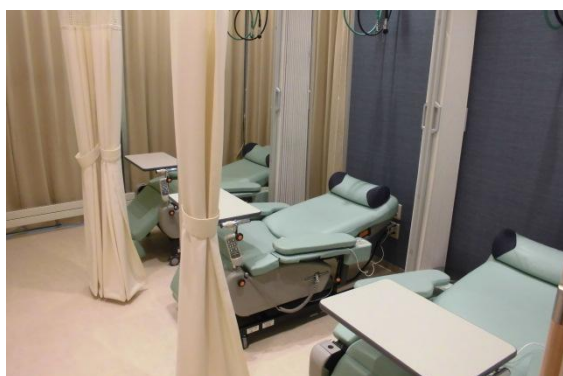


北彩都病院 消化器内視鏡室のご案内

北彩都病院 消化器科 部長 海老澤良昭

2017年4月に消化器内視鏡室が完成し、上部・下部（胃や大腸）の内視鏡検査の施行が可能となりました。内視鏡室は、日本消化器内視鏡学会指導施設の基準である30㎡の広さを確保しており、前処置室を4ブース設置しております。

また、消化器内視鏡システムは、オリンパス社製EVIS LUCELA ELITEを導入。「HQ（High Quality）画質」の高精細画像と、がんなどの微細病変の早期発見に貢献する狭帯域光観察（NBI）により、観察性能が一段と向上したモデルとなっております。



前処置室



消化器内視鏡室

上部消化管内視鏡検査（いわゆる胃カメラ）は毎週火曜日の午前中を定期検査日として行っております。通常の経口内視鏡のほか、極細径（先端部外径5.4mm）の経鼻内視鏡も用意しておりますので、以前、経口内視鏡検査等で辛い思いをされた方も苦痛を軽減し検査が可能になると思います。またピロリ菌検査については生検、尿素呼気試験、糞便中ピロリ抗検査等いずれも当院にて施行可能であり、検査で陽性と診断された方は除菌を行うことができます。なお、上部消化管内視鏡検査については、定期検査日の火曜日以外でも施行可能ですのでご相談ください。

全大腸内視鏡検査（いわゆる大腸カメラ）については、毎月の第2週水曜日午後旭川医科大学第三内科（消化器内科）の医師により検査やポリペクトミー（内視鏡的大腸ポリープ切除）を行っております。健診等で便潜血反応陽性となられた方は一度当院にて大腸内視鏡検査を施行して頂ければ幸いです。検査後はその結果について詳しくご説明させていただきます。

以上、今後当院において消化器疾患の診断および治療の推進を行い、地域医療に貢献していく所存でございますので何卒よろしくお願いいたします。

《定期検査日》

上部消化管内視鏡検査	毎週火曜日午前
全大腸内視鏡検査	第2水曜日午後

※上部消化管内視鏡検査については、火曜日以外でも施行可能ですので、ご相談ください。

★ 永山腎泌尿器科クリニックの紹介

永山仁泌尿器科クリニック 事務長 石川 幸広



永山腎泌尿器科クリニックの診療体制は、泌尿器科外来と人工透析内科（外来のみ）となっております。水永院長が常勤医師であり、両科とも北彩都病院（泌尿器科医、内科医）および旭川医科大学病院（泌尿器科医、腎臓内科医）と連携をとって診療体制の充実を図っております。現在の在籍職員数は医師 1 名、看護課 19 名（看護助手 3 名含む）、臨床工学課 6 名、総務課 7 名の計 35 名で、その他に委託職員としてシダックス（調理員）3 名、旭川健生舎（清掃員）3 名、大丸交通（送迎バス運転手）3 名が在籍しております。

2016 年 8 月には、より地域に密着した医療を行うことを目指してクリニック名称を仁友会泌尿器科内科クリニックから、永山腎泌尿器科クリニックに改称しました。現在泌尿器科では、1 日平均約 48 名の外来患者さんが受診され、人工透析内科では約 150 名の外来透析患者さんが在籍しております。院内は完全バリアフリーで、待合室は木の質感を生かしたぬくもり感のある開放的な空間となっております。駐車場（敷地内）は広く、十分な駐車スペースを確保しています。

■ 診療科紹介

【泌尿器科】

過活動膀胱をはじめ、膀胱炎、前立腺肥大症や前立腺癌などの前立腺疾患、尿路結石症、性感染症（STD）、勃起障害（ED）など全ての泌尿器科疾患の診療を行っています。

健康診断で「血尿」や「タンパク尿」などを指摘された場合の腎臓、泌尿器科疾患の検査、夜尿症や包茎といった小児泌尿器科疾患の診療も行っています。患者さんのお話をよく伺ったうえで、わかりやすい説明をするように心がけています。また疾患の性質上、プライバシーには最大限配慮しています。手術・入院治療が必要な際は、北彩都病院や市内の基幹病院と密に連携をとって対応しています。



院長 水永 光博

【人工透析内科】

常勤医 1 名、旭川医大腎臓内科からの出張医、北彩都病院医師、看護師 16 名、臨床工学技士 6 名にて診療にあたっています。安全、安心な血液透析を行うため、日頃から透析液の清浄化に努め、日本透析医学会が示す「水質基準」にて管理を行っています。また突然の断水等にも対応できるように井水・水道水の切り替えを可能にしています。非常時に備えた防災対策については、避難訓練を年 2 回行うなど、万全の対策をとっています。



北彩都病院とは電子カルテシステムで連携しており、国内の代表的な透析専門施設とスタッフ間の交流を行い、最良の透析医療を提供するべく職員一同研鑽しています。旅行などの際の臨時透析にも対応しています。通院地域によっては送迎バスを運行しています。

■各課より一言

【看護課】

永山腎泌尿器科クリニック看護課は、看護師16名、看護助手3名の総勢19名ですが、ベビーブームが訪れており3名の看護師が現在育児休暇中です。当クリニックには、泌尿器科外来と透析室がありますが、小規模であるため両科のフォローが欠かせず、臨機応変に協力しあって日々の業務を行っています。

当院では透析患者さんの自宅と病院間の送迎バスサービスを行っています。無料のサービスであるため、経済的にも大きな負担軽減になっています。サービスは、原則として自分で乗り降りができる方が対象となっていますが、利用を強く希望される方で歩行状態が著しく改善された方もいらっしゃいます。サービスがADL改善の一助にもなるということ、経験として学ばせていただきました。

また、当院では透析治療のシフト化を計画しております。透析開始・終了の時間をシフト化することにより、効率良く業務を行い、患者さんとスタッフ双方のストレスをなくしていこうという計画です。そして、プライマリチームによる看護の構築を進めており、個別性に寄り添える看護の実現を目指しています。経験のないことも多く、手探りの部分もありますが、立ち止まらず一歩ずつ前進していこうとしています。

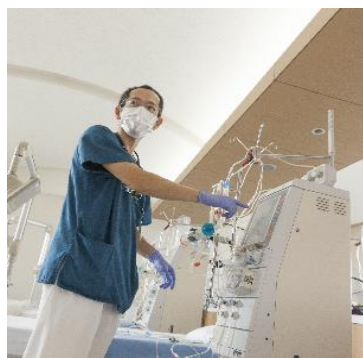
看護課 師長 吉川 美菜



【臨床工学課】

現在6名在籍している臨床工学課は、血液浄化療法を中心に様々な業務を行っています。我々は、生命維持管理装置を扱う専門家として、「より新しい技術を取り入れ効率的で安全な医療を提供し患者さんのQOLを追求すること」を念頭に、病院理念であります「最高の医療の提供」をするよう医師や看護師・多くのスタッフと共に日々の職務に当たっています。当院では約150名を超える透析患者さんの血液浄化業務に関わっていますが個々が専門職として高い資質を持ち技術や知識を効率よく患者さんに還元できるよう努力を惜しまず邁進したいと考えています。

臨床工学課 主任 山本 勝仁



【総務課】

総務課は、事務長のもと現在女性6名（平均年齢38歳とやや高め）で業務を行っています。外来や透析室での受付を始め、電話対応や会計を主に行っています。

患者さんがはじめに顔をあわせ、お帰りになるまでの間に、安心と信頼をお届けできるように、全員が笑顔で接することを心がけています。疑問なことや請求で分からないことがありましたら、気軽に聞いていただけるような存在になりたいと思っています。地域に根差したクリニックの一員として、親しみを感じていただけるように、これからも取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。



総務課 主任 桑原 恵子（写真 右端）

永山腎泌尿器科クリニックは、「患者さんに評判の良いクリニック」「職員に評判の良いクリニック」「医療関係者に評判の良いクリニック」、「2020年に向けて！常に評判の良いクリニック」を目指しています。これからも皆様のご支援、ご協力を宜しく願いいたします。

★ 北彩都病院 泌尿器科 金子 茂男医師 退職のご挨拶



長年の大学勤務を終え、2005年4月に仁友会石田病院に入職させていただきました。当時は1ヶ月後に迫った北彩都病院への移転を前に入院患者さんは少なく、北彩都病院に移転後はオーダリングシステム導入で職員全員が同じスタートラインに立てたことは職場環境変化に適応するには良いタイミングでした。と申しましても、前職場との違いに戸惑い、いろいろな失敗を重ね、周囲の方々に教えていただき、各部署に迷惑をかけながらのスタートでした。電子カルテ導入後はいつでも診療録を見ることが出来ますので、仕事ははかどった

ことは間違いありませんが、検査・処方などの誤入力、指示の矛盾などがあり、多職種のスタッフからの見守りとバックアップがなければ、安全に診療させていただくことは出来ませんでした。

診療業務に慣れてきた頃（入職2、3年目だったと思います）から、昨年3月まで安全対策委員長を拝命しました。医療安全活動をサポートして下さるスタッフとともに関連の研修会や講習会に頻りに参加させていただき、医療安全についての理解を深める事が出来ましたことは私自身の日常の診療においても大変有用でした。おかげさまで重大な問題を残すことなく職務を終えることができ感謝しています。

石田理事長はじめ仁友会の皆さんの仕事に対する前向きな姿勢と、医療人としてのプライド・上昇意識を常に感じる事ができ、そのような皆さんと一緒に仕事させていただいたことを喜んでいます。執刀医として手術をさせていただくようになった頃には、60歳でメスを置くと心に決めていましたが、同僚やスタッフのみなさんの細やかな気遣いと支援のおかげで気持ちよく仕事をさせていただき、気づけば60歳半ばを過ぎていました。診療の質の維持に体力的な不安と私事面の事情等を総合的に熟慮し退職を決意いたしました。理事長には医師不足の中での退職、手術患者さんの術後のフォローアップや外来患者さんの引継ぎのための期間設定等、色々とわがまを申し上げましたが、すべて快くご理解いただき、2018年3月をもって退職させていただくことになりました。

これまでの診療にあたりましては、仁友会のみならず、他施設の皆様にも大変お世話になりました。皆様から頂きましたご厚情に心より御礼申し上げます。

2018年2月

北彩都病院 泌尿器科 金子茂男

★ 50周年記念 - 北彩都病院ギャラリー展示 Part3 - ★

現在、北彩都病院1階ギャラリーにて第3段「透析の流れについて」「透析について」のパネル展示を行っております。

お近くにお越しの際は、是非ごらんください。



★ 発行 ★

医療法人仁友会 北彩都病院 地域医療連携室 広報誌「地域医療連携室通信」編集事務局

〒070-0030 旭川市宮下通9丁目2番1号

Tel 0166-26-6411(代表) Fax 0166-26-6417(直通)